



CHAPTER 8

機能の有効化と無効化

導入 : Cisco NX-OS Release 4.0(1)

Cisco NX-OS ソフトウェアには、OSPF、PIM などの特定の機能を有効および無効にする機能が用意されています。デフォルトでは、Cisco NX-OS ソフトウェアは、初期ネットワーク接続に必要な機能だけを有効にします。この方法では、必要のない追加のプロセスを実行しないことによってオペレーティングシステムを最適化し、アベイラビリティを向上させています。

機能が有効になっていない場合、その機能のプロセスは実行されないため、コンフィギュレーションコマンドと確認コマンド (show) は CLI から実行できません。機能が有効になると、コンフィギュレーションコマンドと確認コマンドを実行できるようになります。機能によっては、機能が設定されるまで (router ospf 10 など)、プロセスは開始されません。機能を無効のままにしておくか、不要になったときに無効にすることを推奨します。

```
n7000# show process | grep ospf
-   NR           -           1   -   ospf
```

```
n7000# show process | grep pim
-   NR           -           0   -   pim
```

```
n7000(config)# feature ospf
n7000(config)# router ospf 10
```

```
n7000(config)# feature pim
```

```
n7000# show feature
```

Feature Name	Instance	State
bfd	1	disabled
bfd_app	1	disabled
bgp	1	disabled

<CLI 出力は省略>

ospf	1	enabled
ospf	2	enabled (not-running)
ospf	3	enabled (not-running)
ospf	4	enabled (not-running)
ospfv3	1	disabled
ospfv3	2	disabled
ospfv3	3	disabled
ospfv3	4	disabled
otv	1	disabled
pbr	1	disabled
pim	1	enabled (not-running)

```
pim6          1          disabled
```

<CLI 出力は省略>

```
vrrp          1          disabled  
vtp           1          disabled  
wccp          1          disabled
```

```
n7000# show process | grep ospf  
9074      S  775d327b      1      -  ospf
```